国立大学法人熊本大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

１　全体評価

熊本大学は、広く海外の諸大学等との人的・文化的交流を通じて、「人の命、人と自然、人と社会」に関する活発な研究活動を推進し、教育・研究活動の成果を活用して、広く地域及び国際社会に貢献することを目的としている。第２期中期目標期間においては、学士課程教育において学習成果に基づいた教育プログラムを整備するとともに創造的知性と実践力に重点を置いたカリキュラムを充実すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、「大学院教養教育プログラム」の平成 26 年度からの導入、高大連携プログラムの充実、パルスパワー科学研究所の設置等、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（機能強化に向けた取組状況）

学長のリーダーシップの下、「大学改革実行プラン推進プロジェクト委員会」及び「同委員会プロジェクト推進チーム会議」において、新たな教育研究組織の設置構想、教員組織と教育プログラムの分離等の新たな体制整備について検討を行っている。また、人事給与システム改革として、「特命教員制度（年俸制）」の運用を平成 26 年度から開始することとしている。

２　項目別評価

Ⅰ．業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標

（①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化）

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○　事務職員の大学情報の収集・分析・活用等に関する能力向上のため、「IR（Institutional Research）スキル向上研修」を実施するとともに、平成 26 年度に「IR データベース管理室」を総合情報統括センターの新たな事業部門として設置することとし、今後の少子化・国際化等への対応のため、学内データを有効に活用できる環境を整備している。

○　男女共同参画の推進として、休日等における託児事業の範囲の拡大や病児保育事業における大学負担利用回数の増、育児中の研究者 11 名への研究補助者の雇用を行うとともに、男女共同参画への認識を深める取組として、大学主催・共催のフォーラム・シンポジウム等を 7 回開催し、合計約 720 名が参加している。

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

○　大学院専門職学位課程について、学生収容定員の充足率が 90 %を満たさなかったこ

とから、今後、速やかに、定員の充足に向けた取組が望まれる。

【評定】　中期計画の達成に向けて順調に進んでいる （理由）　年度計画の記載９事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（２）財務内容の改善に関する目標

（①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善）

【評定】　中期計画の達成に向けて順調に進んでいる （理由）　年度計画の記載５事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

（①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進）

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○　インドネシア・スラバヤにおいて、熊本大学フォーラムを開催し、教育研究活動の成果発表や研究者・学生交流を通じて国際的ネットワークの構築・強化等を促進するとともに、インドネシアに在住する熊本大学留学生 OB・OG との交流会や熊本大学への留学相談等を行うなど、積極的な情報発信を行っている（２日間のフォーラムを通じて、約 1,000 名の研究者・学生が参加）。

【評定】　中期計画の達成に向けて順調に進んでいる （理由）　年度計画の記載４事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、 上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標

（①施設設備の整備・活用等、②安全衛生管理、③法令遵守）

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

○　「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」の規制対象である国際規制物資が管理下にない状態で発見されていることから、再発防止とともに、適切な管理、保管を行うことが望まれる。

【評定】　中期計画の達成に向けて順調に進んでいる （理由）　年度計画の記載８事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成 24 年度において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ．教育研究等の質の向上の状況

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○　高大連携の取組である、「熊大ワクワク連続講義」について、熊本大学会場で実施する夏季プログラム、秋季プログラムに加えて、高等学校からの要望に基づきサテライトプログラム（八代、玉名）を実施した結果、全体で 2,107 名の高校生が受講しているほか、高大接続シンポジウム「高校生と大学生の、ぶっちゃけトーク！その学部・学科選び、どうなんだろう？」を開催し、参加者（アンケート）から高い理解度（86 %）が得られている。

○　多元的な価値への理解力、柔軟な思考力及び鳥瞰的に事物を把捉する力を有し、高度な知的基盤領域において新機軸を切り拓く力を備えた人材を育成するために、大学院課程の共通科目及び他研究科に開放する横断的科目のプログラムとして、「大学院教養教育プログラム」を平成 26 年度から導入することを決定し、同プログラムの試行として、集中講義及びノーベル賞受賞者による講演を大学院特別講義として実施している。

○　学生の多様な相談への対応を図るため、キャンパスソーシャルワーカーを２名に増員し、相談者のアパート訪問や「学生相談室だより」の該当学生への送付、学生の交流の場の提供を目的とした「DVD 鑑賞会」を実施した結果、学生相談室への相談件数が、1,512 件（平成 24 年度 775 件）となっている。

○　パルスパワー科学研究所を設置し、世界初超臨界流体プラズマリアクター、世界初バースト高電界によるがん治療等、画期的な課題に挑戦している。また、オールドドミニオン大学（米国）等 15 機関が参加しているバイオエレクトリクス国際コンソーシアムを、熊本大学が中心となり形成、運営を行っている。

○　熊本発の新しい医薬品や医療機器を開発するための人材育成を目指して、独立行政法人医薬品医療機器総合機構と連携・協力に関する協定を締結し、医学教育部、薬学教育部に、平成 26 年度から「レギュラトリーサイエンス学」を大学院連携講座として設置することを決定している。

附属病院関係

（診療面）

○　「脳卒中・急性冠医療連携寄附講座」では、阿蘇地域の医療機関との連携体制を強化し、阿蘇地域における急性期脳梗塞患者に対する t-PA 治療（血栓融解療法）の実現のため、遠隔画像診断システムを整備している。

（運営面）

○　職員の勤務環境を改善するため、院内保育所を開所するとともに、医師・看護師の負担軽減、医療安全強化のため、薬剤師の全病棟配置に向けて増員を決定し、平成 26 年４月に薬剤師 16 名を採用しているほか、看護師不足、育児休業の増加に対応するため、育児休業代替事前確保枠を 27 名から 60 名へ拡大し、看護師を増員することを決定している。